



君に届け

カラー版やバック
ナンバーは「ホーム
ページ」で検索

令和7年11月10日
校長 菊川 靖浩
熊本市西区小島8丁目 17-1
TEL 329-2792
FAX 329-2817

〈壁を乗り越えることがその先の人生に生きる〉

先週はドジャースの連覇で盛り上がっていましたが、あえて今回は福岡ソフトバンクホークス（以下「ホークス」）の小久保裕紀監督についてのお話です。小久保監督は王監督の継承者として忍耐力と、意識改革で常勝軍団をよみがえらせた人物です。

小久保監督は現役時代、ホークスの4番打者として王監督のもと、5度のリーグ優勝と3度の日本一を経験します。そんな華々しい経歴を持つ小久保選手にもスランプが訪れます。1999年の前半戦、打率は1割台で、2カ月近くホームランも出ていませんでした。小久保選手は王監督に「4番から外してください」と訴えます。皆さんが監督ならどうしますか？王監督が返した言葉は「おまえは4番から外さない」でした。その時のことを、小久保選手は「逃げたくても逃がしてくれなかった」と回想しています。その後、小久保選手は重圧を真正面から受け止め、練習を繰り返し、リーグ優勝を決めた試合では同点ホームランを打ち優勝に貢献しました。この時「壁を乗り越えることがその先の人生に生きる」と胸に刻んだそうです。その後、小久保選手は2013年から2017年までは侍ジャパンの監督を務め、2021年からホークスにコーチとして復帰。2022、2023年は2軍監督。2024(令和6年度)から1軍監督に就任し、パリーグ制覇、監督2年目の今年は念願の日本一になりました。



ちなみに昨年4番打者を任されたのは山川選手でしたが、山川選手も30試合ホームランが出ない時もありました。しかし、小久保監督は自分も苦しみ、壁を乗り越えた経験があったからこそ、「4番を変えるべき」という意見もある中、プレずに4番打者として山川選手を使い続けたといいます。昨年、王監督の立場になった小久保監督は「王さん、あの時よう我慢したな。同じ景色はそこに立たん限りは見えないんやな」とあの時を振り返っています。この言葉からは、今日の1勝を取るのか、今日は負けたとしても、この選手がもう一回り成長し、その後の数年間さらに素晴らしい選手として活躍する姿にかけるのかを、監督として苦しみながらも愛情を持って決断したのが伝わってきます。あれから1年が経ち、今年の日本シリーズでは、山川選手は最高殊勲選手（MVP）に輝き、見事に小久保監督の決断を自分の力に変えたのでした。

この通信で、寄り添う大切さを伝えることもありますが、今回の話から、寄り添うとは真逆の言葉掛けが人を成長させることもあることが分かります。私が小さいときも親や先生方から「それぐらいでよくよするな」「負けるな。乗り越えろ」と言われることが多く、そういう時代だったと思います。現在は配慮という価値観に重点が置かれることが多いように感じますが、子どものためにあえて厳しい言葉掛けをすることがあります。その言葉掛けをするときは、この子なら乗り越えられる（今が乗り越える時）と判断したときです。どちらが正しいというわけではなく、バランスやタイミングがとても大切で難しい問題のように思います。

ちなみに、王貞治さんはこれまでの功績が認められ、今年の11月3日、文化勲章を受賞されました。王さんの活躍を小学校時代にリアルタイムで知っている私も、本当にうれしく思います。

〈命の大切さを考える講演会〉

11月5日(水)は、2年生を対象にフォーシーズンズブレイディースクリニックの田端愛先生をお招きして、命の大切さを考える講演会をzoomを用いて開催しました。話の中で、妊娠のメカニズム、性病、性暴力、安易な性交渉への懸念、人工妊娠中絶の割合が全国でも熊本は高いこと、子宮頸がんワクチンは男性に注射をしてもパートナーの女性に効果があることなどを話されました。田端先生、貴重なお話をありがとうございました。

